

二〇〇一年(平成十三)年度の大分県地方史研究会大会・総会は六月三日(日)一〇・〇〇から大分県立図書館第二・三研修室で開催された。例年どおり午前中に会員による研究発表、午後には総会・公開講演というスケジュールで一六・〇〇に閉会。参加者約六〇名。概要は次のとおりである。

(一) 会員研究発表(一〇・〇〇～一二・〇〇)  
坂本嘉弘(県文化課)

「中世大友府内町跡の発掘調査」平成十二年度の調査から」

高陽一(別府大学大学院)

「荘園村落の領域構成と石造物」豊後国大野荘を事例として」

平井義人(県立先哲史料館)

「毛利高政と豊後入封期に関して」

近年注目されている中世の府内町跡の発掘調査報告、石造物を「史料」として扱い荘園村落の領域構成を考察した発表、

毛利高政の豊後入封期を史料を駆使しての考察といずれも内

容の充実した発表であった。

(二) 総会(一一・五〇～一三・三〇)

最初に豊田会長のあいさつ、続いて第一八回大分県地方史研究奨励賞の発表、表彰式が行われた。今回は会誌一八一号に「戦跡『豊予要塞』の実態を探る」を発表された三重野勝人氏(別府市)が受賞。同氏は元県立高等学校長で、近現代史を専門、先哲叢書『福沢諭吉』評伝の執筆者でもある。

議事は矢野徳弥氏(本匠村・佐伯史談会会長)を座長に選出し、一―三号議案を審議した。

一、二〇〇〇(平成十二)年度事業・会計報告とその承認

二、二〇〇一(平成十三)年度事業計画案について

三、二〇〇一(平成十三)年度会計予算案について

一号議案について、事務局側から説明があり、全会一致で承認された。ついで吉田豊治監事から監査報告があり、会運営は適正に行われている旨の報告があった。

二号議案は事務局から提案があり承認された。主な事業は次のとおりである。

本年度の会誌は四冊四号を左記の予定で刊行する。

一八二号(〇一年七月刊) 編集 長田弘通

一八三号(〇一年十月刊) 編集 田中裕介

一八四号(〇二年一月刊) 編集 段上達雄

一八五号(〇三年三月刊) 編集 櫻井成昭

研究会活動は、月例研究会を毎月第二土曜日に三部会のローテーションで実施する。各部会の責任者は左記のとおりである。

古代・中世史部会 三重野 誠

近現代史研究会 平井 義人

近現代史研究会 長野 浩典

なお出席会員の中から、各研究会ごとの案内を送って欲しいという要望があったが、これについては、各部会の責任者に申し出れば次回からの案内は送付できるので、その旨を説明。

第三号議案については事務局の提案を受け、承認を得た。

(三) 公開講演(一三・三〇一五・三〇)

飯沼賢司氏(別府大学教授)が、「環境歴史学の可能性」いうテーマで講演。飯沼氏は、県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館(現県立歴史博物館)勤務当時から、の荘園村落遺跡調査をふまえて「環境歴史学」を提唱しており、今回の講演は地域

開発史と環境歴史学、環境歴史学からみた風土と政治、環境歴史学と宗教の三つの観点から環境歴史学の可能性を探るという内容のものであった。ヒトを取りまく自然環境はもろろんのこと、人文的環境・歴史的環境などを総合的に把握し歴史学像を再構築しようとする「環境歴史学」は、今後の歴史研究に一つの指針を与えるものとして興味深いものであった。

(小泊)

二〇〇〇(平成十二年)度の各研究部会の活動状況は次のとおりである。

古代中世史

実施日	発表者	内 容
7月22日	三重野 誠	挾間町甲斐家文書について
10月28日	安田 晃子	「豊後国における蹴鞠の展開」 ―戦国期を中心として―
11月11日		先哲資料館記念講演会 佐藤和彦氏 「蒙古合戦と南北朝内乱」 ―地域から戦争と平和を考える― 参加
4月28日	平井 義人	毛利高政の豊後入封期に関して

5月20日	平井 義人	板本調査の方法をめぐって — 書誌学的アプローチとその問題
8月26日	佐藤 晃洋	文化— 探研究の総括と課題
2月10日	平井 毅	近世初期の安岐郷について

6月24日	三重野勝人	豊予要塞について
9月9日	高橋 信武 遠部 慎 五十川雄也	黒土峠付近の西南戦争
12月9日	清原 京一	農村経済更生事業と満州分村 — 東国東郡中武蔵村の事例から—
3月10日	古門 理恵 松本 祐美	御許山騒動史 宇佐航空隊の歴史

## 原 稿 募 集

大分県地方史研究会では、会員の皆さんの原稿をお待ちしています。論説・研究ノート・史料紹介・調査報告・研究動向・会員だよりなど、次の点に留意して積極的に投稿して下さい。

- 一 連載は上下二回までとする。
- 二 特別製版を必要とする原稿は、完全原図に限り点数を制限しない。
- 三 抜刷りは一〇部のみ会で作成する。それ以上の増刷については、執筆者の負担とする。表紙は会で作成する。

四 原稿は事務局に郵便書留で随時送付願います。